



室小だより

茅ヶ崎市立室田小学校
令和3年12月号
校長 下反達二

学校教育目標「豊かな心を持ち、主体的・創造的に行動する子の育成」

「リスペクト アザース」

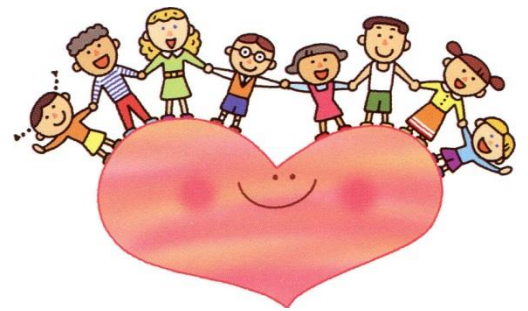
身体がスツとするような、清く澄んだ青空の下、子どもたちの、校庭で走り回りボールを投げ合い笑い合う姿に、毎日元気をいただいています。そこにいる子どもたちの姿やふるまいには、それぞれの子の持ち味がにじみ出ていて、知らず知らずのうちにひきつけられてしまいます。

表題の「リスペクト アザース」は、第32回全国中学生人権作文コンテスト（平成24年度）で、法務大臣賞をとった鎌倉市の中学生による作文のタイトルです。中学の道徳の教科書にも掲載されています。直訳すれば「他の人のことを尊重しなさい。」ということになるのでしょうか。アメリカのサンディエゴで生まれ、そこで、10歳半まで過ごし、日本の小学校に通い始めます。周囲のみんなのおかげで、日本での生活にはすぐに慣れたそうですが、同時に大きなカルチャーショックを受けたそうです。『「リスペクト アザース」(他者を尊敬する意識)がそこにはなかった、違いを認めようとしめない意識に一番驚き、とまどった』と日本の小・中学校生活を振り返ります。

サンディエゴでは、人間関係のトラブルがあるたびに、どの教師も必ず「リスペクト アザース」と注意を促したそうです。その言葉は、「その行為自体」を注意するのではなく、その元となった「根本の考え方」を問題にしていると筆者は述べています。

本校で長年すすめている「あたたかい聴き方 やさしい話し方」の根っこにも、この「リスペクト アザース」の考え方が通底していると思っています。これは、気の合った小さな仲間同士でしかしゃべらない、行動しない、あるいは、何事もないように気を使い、空気を察しあうといった、いわば温室の中でのコミュニケーションとは一線を画します。子どもたちは、日々お互いの関わりの中で生活しています。時として、考え方がぶつかり合うことだってあります。そんな時に、少数を排除したり、攻撃したりするのではなく、まずは、互いに相手のことを理解し、尊重し合うことが大切でありそれが基盤だと思うのです。子どもたちの心もちはみな違います。

この作文は、こう締めくくられています。「同じ人間は一人もいない。人と違うことがまたその人の個性である。違う点だけでなく、うまくいったこと、できなくても努力していくことなどを尊重し合っていくことができれば、もっと素晴らしい社会になっていくと思う。」と。



12月10日は人権デーです。

先日は様々な制限のある中、授業参観に多数ご参加していただきありがとうございました。令和3年も最後の1か月に入ります。12月は2年生遠足や松の実教室の校外学習、6年生の東京見学に続き、個人面談もごぞいます。引き続きご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。